

学校関係者評価報告書

＜実施日：2025年3月31日＞

公益財団法人横浜YMCA
横浜YMCA 学院専門学校

横浜YMCA学院 専門学校 学校関係者評価報告について

横浜YMCA学院専門学校では、全ての教育内容や通常の業務が、運営母体となる YMCA 活動に基づき行われているかについて、現状を点検して、さらなる改善及び向上を図っていくことを目的に、2007 年度より全教職員による自己点検「YMCA専門学校運営ガイドライン評価アンケート」を実施し、自らの立ち振舞いを振り返る機会としています。

また、2013年度より、卒業生や本校に関係の深い病院・施設・団体の方々を中心に、広くご意見を伺い、今後の教育活動や学校運営に反映させることを目的に、「学校関係者評価委員会」を発足し、定期的な意見交換・情報収集の場として運営しています。2024年度は 3月31日に実施した委員会において、たくさんの貴重なご意見やご指導をいただき心より感謝申し上げます。改めて、多くの方の意見を聞くことは、学校評価の重要性と、YMCA の運営する専門学校としての使命を再認識した次第です。

今後とも、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参りますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2025年4月1日

公益財団法人横浜 YMCA

横浜YMCA学院専門学校

校長 山下 忠司

1. 「学校関係者評価」の実施方法

学校関係者評価委員会より「横浜YMCA の活動にもとづき運営される YMCA 専門学校は、学校教育機関であると同時にボランティア団体や国際交流団体、社会教育活動団体の側面が職能教育や人材養成に生かされることが特長である。それらを踏まえた評価項目の設定をふやすことにより、地域で活躍する人材養成を担う学校づくりのより一層の指針となるのではないか」というご意見をいただき、本校にて2007年より実施している自己点検「YMCA 専門学校運営ガイドライン評価アンケート」より抽出した。

今年度も「2024年度自己点検評価表」について、本校に関係の深い 3名の委員（委員一覧表）に評価していただいた。各委員には、前記の自己点検評価表及び学校運営に関連する資料等を配布し、意見等を聴収した。

各委員からの評価については、本校校長が承り、その内容について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

委員	所属
金山 桂	介護老人保健施設 千の風・川崎 職員 作業療法士
宮内 明美	横浜学院専門学校 国際情報ビジネス科 講師
飛鳥 政明	フード・リエゾン アスカ 代表 横浜学院専門学校 国際情報ビジネス科 講師

(事務局)

立花 明美	横浜YMCA学院専門学校	校長【前任校長】
小倉 三奈	横浜YMCA学院専門学校	国際情報ビジネス科 教員
山下 忠司	横浜YMCA学院専門学校	主任

3. 2024年度自己評価の概要

●学校の教育目標及び本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・ イエス・キリストの生き方にならい、弱くされている人に寄り添いながら人材養成をしたいと考えている。
- ・ 18歳人口の減少、大学の全入など学生募集が厳しい現状ではあるが、可能な限りの工夫をしながら募集をおこない、地域の中で地域に必要とされる養成をしたい。
- ・ 昨今の学生たちを取り巻く課題は多様化しており、学習面だけではなく経済的な困難を抱える学生も多くおり、横浜YMCAで実施している奨学金制度を活用して、学生支援を行っている。
- ・ コロナ禍にあり、留学生の日本への入国が規制されていた日本語学科や国際情報ビジネス科では、学生数の減少により収入が減少していたが、回復傾向にある。2025年度には日本語学科及び国際情報ビジネス科についても通常時に回復する予定である。

●評価項目の達成及び取組状況

①教育理念・目標・YMCA活動

学校設立当初より、基準を守りつつ運営をしてきているので、ゆるぎなく評価できていると考えている。理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「人とのかかわる専門職」として必要な行動様式をも身につけることを目標として、広く周知を心がけていく。作業療法士は、業界からのニーズも高く、養成は社会的にも期待されている。魅力ある職業として、魅力ある実践教育の場として、また福祉社会の担い手としての魅力を十分に伝えきれていないことは課題となっている。

作業療法士養成施設であることの認知度を上げるためにも、学校での活動をSNS等の広報媒体を使用し

て地域に発信していく事や在校生に対して丁寧な指導とスポーツ活動、ボランティア活動を紹介・提供していき、学習以外の学びを通して、人間力を身に付けた作業療法士を社会や地域に送り出せるように教職員が協力して、学生のサポートに努める。

作業療法科は2022年度より募集停止を行っており、残り1年間の間で多くの学生が作業療法士になり、社会に貢献が出来るように、学校運営を継続していく。2024年度には13名の学生が卒業をし、10名が国家試験に合格し、9名が作業療法士として就職をした。1名は大学院への進学となった。不合格となってしまった学生の対応は2025年度においても引き続き、実施をしていく予定。

学校説明会や入学時のオリエンテーション、保護者会など、あらゆる場面で学校教育目標と育人人材像を丁寧に説明している。資格取得に留まらず、他者への配慮、尊敬する心、そして自らが誠実さや責任感を育むための経験を学習機会に取り入れ、人とのかかわる専門職に必要な豊かな人間性の成長を学校生活の中で育める教育活動を目指していく。

②学校運営

人的体制に変更があったが情報共有と成績管理等のデータベース化を終えた。

在籍学生に対し、PCスペックを明示し個人での準備を促すようしている。準備ができない学生については学校用レンタルパソコンを利用するように促している。2023年度までのレンタル用のパソコンはスペックに問題があったが、2024年度に新しいパソコンを導入し、多くの問題が解決された。

Google Classroomを常時運用している。授業の事前案内や授業内で使用する資料の事前確認が進み講師の評価も高い。

③教育活動

厚生労働省指定のカリキュラムはきちんと守られている。

学力の低い学生が増えていることから、読み書きや自己表現の苦手な学生への課題解決のための授業を行い、基礎学力の向上に取り組んでいる。授業の中では個別に対応する事が難しい為、専任教員が放課後に学生をサポートしている。留学生間で授業中に同じ国籍同士での会話が目立つようで、教え合い等ポジティブに働く側面と、馴れ合いで、学習の遅れをしている学生が本当の意味で授業内容を理解していない状況もみえる。今後、対応講師と共に個別に対応をして、授業ごとに問題を聞き取り、対応をしていく。

学校業務については教職員間でのOJTが円滑に進むよう、マニュアルを作成し、随時更新をしていく。また、教職員間のコミュニケーションを増加させ、学生状況など情報を共有できる体制づくりを整えていく。

特記事項：教育課程編成委員会には、業界有識者のほかに本校の学習範囲となる医療系施設役職者を迎え、職業現場での最新の情報を得ながら、どのように体系的にカリキュラムとして提供すべきか意見を仰いでいる。また、臨床実習における学生の準備、心構えを現場の作業療法士から伺い、授業の取り組みの参考にしている。

④学修成果

校友会等の協力による就職ガイダンスではオンラインでの実施ではあったが、医療の分野で現任者として活躍する卒業生が、自身の就職活動や学生生活での体験などを良きロールモデルとして語ってくれている。教育活動の様々な場面で、学生自身のキャリア形成に向けて、学生自らが考える機会を持てるようにする必要がある。

また、退学防止を最優先課題として努めている。就職後のはたらきの中で、学校行事などでの体験も評価されている。就職率については、継続的に就職希望者の全員が就職を果たしており良好と言える。

⑤学生支援

2024年度はクラス担任を配置し対応をした。一人ひとりの学生が抱える課題が多様化し、教職員に求められるスキルや時間も相当量増えてきている。学生一人ひとりの課題（基礎学力不足、学習経験の不足、学習障害など）を早期に明確にし、クラス担任による定期面談の回数を増やしたい。また、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行う。

⑥教育環境

施設設備は、現状の状況にあわせて備品の見直しを行った。雨漏りや窓ガラスのひび割れ、床の沈みなど施設の老朽化した箇所については全て修繕を実施した。また、老朽化していた椅子の入れ替えを2023年度同様に実施し、学生の授業環境を再度、整備した。オンライン授業時のGoogle Classroomの導入により、災害時においても複数の連絡方法が確立できた。

⑦学生の受け入れ募集

2022年度から作業療法科は募集停止とした。国際情報ビジネス科（入学定員40名・2年制）および日本語学科（定員120名・1年制・最長2年まで学習可能）については引き続き募集活動を継続していく。国際情報ビジネス科の募集は良好で2025年度の募集は定員40名を満たし、2025年1月には募集を終了した。

⑧財務

学費納入が滞る学生への個別対応を行う。学生の退学を防止し、財務基盤の安定に努める。

⑨法令等の遵守

適正な学校運営がなされている。自己評価は教職員全員で毎年実施しているが、その評価を元に、課題改善に向けての取り組みを教職員全員で取り組むことができるよう、半期ごとに振り返りのための時間をもつ。あわせて、学校関係者や卒業生など、外部の委員を召集し、学校評価委員会を年に2回実施する。

⑩社会貢献

教職員は、地域で開催される研修で講師や、施設が主催するプログラムにおいて指導を務めるなど、学校の持つ専門性を地域で活かす取り組みを進めている。

同じ中区地域の課題への取り組みとして「寿地区炊き出し活動」、「常盤町地域清掃」などについては学生に案内し、ボランティアとして参加してもらっている。身近な場にある課題について知り、自分ができることを実践することで、活きた学びを身につけてほしいと願っている。

また、外国につながる子どもたちに対して、無償で学習支援も本校の活動の一環で行っている。神奈川県内には多くの外国につながる子どもたちがおり、日本語力の問題で学校の長期休みなどで宿題ができない、学習の遅れが発生する事例がある。本校では留学生を受け入れている学校として外国につながる子どもたちと同郷、同国の学生をボランティアとして迎え入れ、外国につながる子どもたちと一緒に宿題を行っている。宿題だけでなく楽しくYMCAに来てもらえるように一緒に遊ぶことも取り入れて活動をしている。今年度で3年目の実施となる。財源は横浜YMCA国際地域協力募金の協力で運営をしています。

⑪国際交流

学生たちが差別・偏見なく異文化理解できるよう、留学生とのかかわりの機会も増やしている。富士山YMCAでの宿泊研修からスピーチコンテスト等、授業外での部活動(卓球・スポーツデイ)の活動で交流する機会を設けた。夏季には神奈川県専門学校体育大会の卓球大会に留学生が参加して、準優勝を獲得した。

4. 委員による討議・意見交換

自己点検結果及び、学校に対する要望や職業現場での課題を含め、学校運営のあり方等について、次のような意見をいただいた。

■学生支援・退学防止・国家試験対策について

- ・学生支援を手厚くしていくことが退学防止に有効と考える。
 - 国際情報ビジネス科にキャリア教育や就職指導・履歴書のチェックなどを担当している非常勤講師がいるので、専任教員とコミュニケーションを取りながら、学生のサポート体制を構築してほしい。
 - 次年度は卒業生が9名から38名に増える学科があるので、卒業後の進路を年度内に確定できるように教員の人数を増やすなど体制を整えてほしい。
 - 専門的な内容だけでなく、学校に来づらい悩みごと・家庭の悩みなどをサポートできるようにスタッフ体制を学校全体として整えていきたい。
 - 毎朝10分を日本語の読み・書きの練習に充てるなど、日本語能力をもう少し上げてほしい。
 - 資格試験には合格するためにも、日本語教師でなくても、できるような課題を毎日少しでも学生に与えて日々の能力向上に努めてほしい。
- ・日本で生活する為に必要なけじめ、時間管理、人の話を聞く態度をしっかりと理解させた上で入学させ

てほしい。また学校として引き続き、人との約束について指導をしてほしい。

→今後、社会に出ていくのは学生さんなので、社会人としてのマナーや時間管理などは自分自身で行えるように引き続き、指導をしていきます。講師の皆様にも引き続き、ご協力お願いいたします。

- ・施設設備は現状の状況にあわせて備品の見直しを行い、その都度、修理修繕を行いました、お気づきの点があれば、教えてください。

→学生の人数が多くなり、現プロジェクターでは能力が低いと感じる。特にボリュームが問題であり、外付けスピーカーもトライしたが、解決できなかった。もう少しレベルの高い製品がほしい。

→簡易の拡声器を購入して、音量については様子を見ていく。

- ・地域への貢献や社会貢献は良く出来ていると感じている。感心しているので、引き続き、継続してほしい。活動の詳細や報告をもっと、教員にも伝えてほしい。

→現状のYMCAの社会活動の全て体験をしているわけではないので、意見できる立場にあまりないかもしれないが、報告を受けている段階では現状通りで問題ないと考える。夏休みなどでのインターンシップ先にはもっとホテル関連の企業を増やして、もっと産学連携してもよいと考える。

→炊き出しや地域清掃活動、チャリティランなど、さまざまな取り組みを行っているので、今のところ地域貢献や社会貢献としては十分に感じている。

- ・学校に対してのご意見、要望など

→ホテルレストランサービスに関する、演習、検定対策、等の授業をカリキュラムにもっと組み込んでほしい。

→学生が自国を紹介できるような場があれば、良い活動、機会になると思っている。卒業発表でも良いので、学生が発表できる機会をたくさん作ってほしい。卒業生の就職先の企業や近所の方、他校の留学生に来校してもらい、横のつながりを強化して、お互いに成果発表する機会を設定してほしい。

→作業療法科は残り一年になります。この3年間、彼らなりに頑張ってきたと思います。自信のない学生さんたちなのでぜひ褒めて、伸ばしてほしい。

■まとめ

本校は多くのミッション系学校と同じようにキリスト教的価値観を伝えていくことが重要であります。

分け隔てなくあらゆる人の命を大切にすることや一人ひとりの人権や考え方、宗教を大切にできる社会の担い手をつくることを今後もYMCAの学校として続けて参ります。

人を受け入れること、人との違いを受け入れること。人に仕え、人に奉仕する気持ちを常に持ち続けること。それらのことができればYMCAにつながって、学んでくれた価値を感じられると思っています。

学生たちにこの思いが今すぐに伝わらなくても、行動や考えが今すぐに変わらなくても、10年後

にYMCAでの学びや思い出を思い出し、その人の行動と気持ちが変わることを願い、活動が続けたいと思っています。

YMCAで学ぶ学生がYMCAの正章の赤三角に記されている通り、「精神spirit」「知性mind」「身体body」のバランスのとれた成長ができるようにこれからも努めて参ります。

引き続き、卒業生や地域のみなさまにも力をお貸しいただきながら、地域社会に貢献ができるYMCAの学校を目指していきます。

5. 閉会

各委員よりいただいた貴重な意見を今後の課題として、YMCAの専門学校としての人材養成を引き続き進めていきたい。学生一人ひとりが自らのキャリアを考え、創ることができるように、卒業生たちの協力を得ながら人材育成につなげていくことを、今後も私たちの課題・テーマとして、実施に向けた方策を検討していきたい。

また、横浜YMCAカレッジグループ3校すべての専門学校で、次年度も退学者を減らすことを目標に取り組んでいます。今年度は各校で減少傾向にあり、国際情報ビジネス科の1年生は2名の退学者に抑えられた。学校生活での満足度や教職員のサポートによるところが良い影響を及ぼしていると感じています。皆様には、今後の横浜YMCA学院専門学校にて学生の満足度が上がり、学生自身が夢に向かって進めるよう、引き続きご協力いただきたい。

以上